

地域医療連携室だより

～早春号～

大阪市立十三市民病院

平素は当院との連携におきまして、地域の医療機関の皆様には格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の第3波では、当院での入院病床を70床で運用する状況となりましたが、緊急事態宣言以後、患者数も徐々に減少してきました。

昨年7月に産科・分娩を除く一般診療(外来・入院)を再開し、コロナ患者の増減にかかわらず継続しています。感染管理上の制限等があるものの、第3波の状況も注視しながら段階的に一般診療(外来・入院)の拡大を進めてまいります。

これまで同様に地域の患者さんに効率的で良質な医療サービスを提供するために、先生方と深く関わり、円滑な紹介・逆紹介、診察、検査、手術が行えるよう最大限の努力をしてまいりたいと考えております。

改めて、各診療科の診療内容を掲載いたしますので、これからも先生方のご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

地域医療連携室の業務の一部を以下のとおりご紹介いたします。

* 入退院支援センター

現在、入退院支援センターでは、入院前支援(PFM:Patient Flow Management)を再開し、全科の患者を対象としてPFMを実施し、コロナ禍での入院生活が安心して送れるようにしています。PFM実施日に、新型コロナウイルス感染症のPCR検査も併せて実施しております。

* がん相談支援センター

がん相談支援センターでは、患者さんやご家族、地域の皆様の「がん」に関することや治療に関すること、生活や仕事に関する不安や心配ごと、セカンドオピニオンなどのご相談を専門の相談員が受けております。ご予約は不要です。

地域医療連携スタッフ一同、ご期待に沿えるよう努力していく所存です。何卒よろしくお願いいたします。

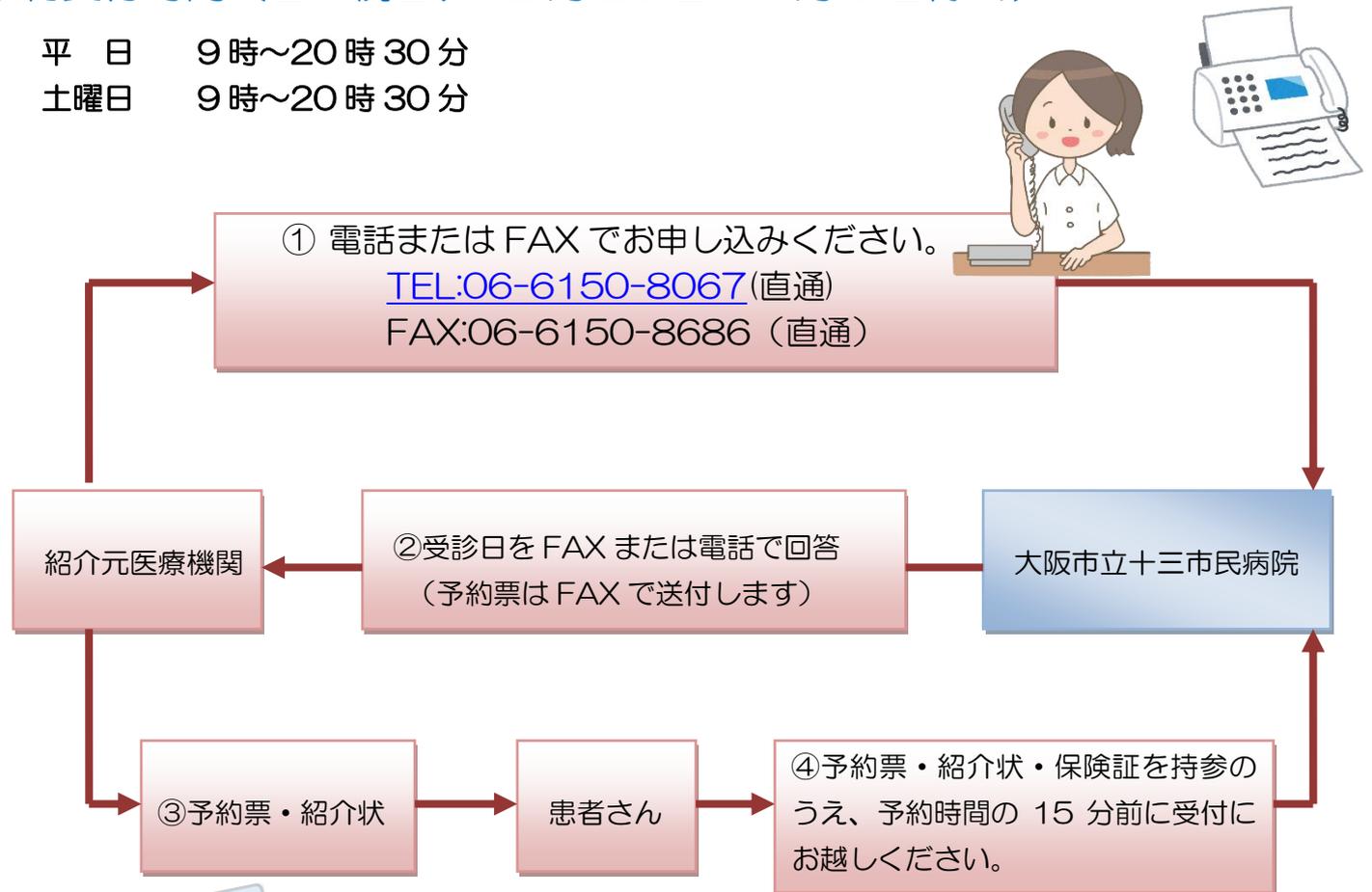


紹介患者の受診の流れ

紹介患者さんの待ち時間短縮のためにも、事前に地域医療連携室の専用電話・専用FAXによる予約をお願いします。

予約受付時間（日・祝日、12月29日～1月3日除く）

平日 9時～20時30分
土曜日 9時～20時30分



連絡先（地域医療連携室：直通）

電話：06-6150-8067

FAX：06-6150-8686



糖尿病・内分泌内科のご紹介

糖尿病内分泌内科部長 日浦 義和

7月27日より外来を再開し、同時に血糖コントロール不良な患者さんの入院治療も再開しています。約3か月間外来診療ができない状況が続き、先生方に300人以上の患者さんの治療をお願いし、先生方にはお手間をとらせてしまい申し訳ありませんでした。この場をおかりして御礼申し上げます。

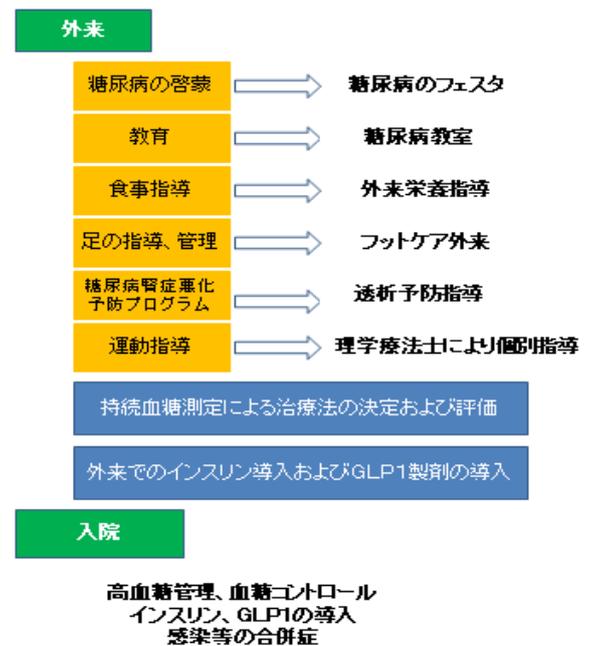
ステイホームで家にいる時間が多くなり、体を動かすこともなく悪化した患者さんがいらっしゃる一方で、もともと飲酒や外食が多い患者さんでは、逆に血糖コントロールが改善していることもあり、日頃の糖尿病指導の必要性およびその難しさを再認識した機会となりました。

糖尿病の治療が難しい理由は、薬物による治療を行う前に、食事療法、および運動療法が必要となることです。食事療法や運動療法は基本的には自分ですることになり、また薬物療法においても、血糖測定やインスリン注射等自己管理が必要となります。そのような管理を継続しなければならないことも問題となります。

患者さんが継続して療養できるように、私たちは、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、栄養士、理学療法士等からなる糖尿病ケアチームをつくり患者さん個人に応じた医療を実践できることを目指しています。それぞれの専門的な知識を生かし患者さんをサポートします。

糖尿病治療において先生方がなかなか時間を割くことができないことや取れないことに、対応させていただきたいと考えています。

甲状腺疾患を含む内分泌疾患にも対応させていただいています。また骨粗鬆症についても、DEXAにて骨塩の定量を行い、骨代謝マーカ等の採血をあわせて適切な治療法をご提案させていただきます。



呼吸器内科のご紹介

呼吸器内科部長 白石 訓

当院における呼吸器内科の発足は、平成22年(2010年)1月に呼吸器内科を新設し、同年2月に結核病棟を開設しました。新たな区切りになると思っていた開設11年目の2020年が、新型コロナウイルス感染症のパンデミックで幕を開けるとは思ってもみませんでした。2020年3月より、大阪市として当院の結核病棟でCOVID-19患者の入院対応をする方針となり、入院中の患者36名全員を専門病院へ転院して頂き、

3月末より受け入れを開始しました。以後、当科はCOVID-19専従となり、外来一般診療と一般入院を停止しました。7月より一般呼吸器外来を再開し、現在に至っております。2021年は、肺気腫や気管支喘息の診断加療、睡眠時無呼吸症候群の診断加療、胸水に対する診断やドレナージ治療など、当科の発足当初から継続していた診療を1つずつ取り戻して参りたいと考えております。何卒お願い申し上げます。



産婦人科のご紹介

産婦人科部長 中田 真一

2020年5月、当院がコロナ専門病院となって以降、産科診療は中断したままでした。近隣の医療関係の皆様には本当にご迷惑おかけしましたが、2度目の緊急事態宣言を経て、最近漸くコロナ患者が減少傾向にあり、ワクチンの効果が期待できる今、いよいよ産科診療を再開する予定です。

コロナ専門病院として培ってきた感染防御対策を活かして、より一層安全な産科診療を行い、患者様に満足いただけるよう準備を進めているところです。日程などの詳細は後日公開いたします。

診療方針は従来と変わらず、高次医療機関と連携をとりながら、可能な限り自然なお産を心がけ、「赤ちゃんにやさしい病院」(WHO・ユニセフ認定)として母乳で育てたいお母さんを妊娠中だけでなく、産後も応援していきます。

また新たに超音波診断装置(VolusonE8, S10 Expert)を導入し、より鮮明な赤ちゃんの画像を提供いたします。4D超音波外来も新設し、オープン予約で始める予定です。患者様にお声をかけていただければ幸いです。

なお婦人科診療はすでに再開しており、外来患者、手術症例ともに少しずつ増えてきている状況です。

当院が一般診療閉鎖中は近隣の先生方には本当にお世話になりました。この場をお借りして御礼申し上げます。

今後とも十三市民病院産婦人科をよろしく申し上げます。



小児科のご紹介

小児科部長 平林 円

2020年5月より新型コロナ専門病院となり、一般外来および産婦人科と小児科の入院を受け入れていた4階病棟も閉鎖となりました。小児科医師も高齢者を中心としたCOVID-19の軽症～中等症、時には重症患者の主治医として働いています。2020年7月下旬からは一般外来が再開され、5階病棟のみ各科共用の一般病棟として運用が始まりましたが、新型コロナ感染対策による面会制限や、年少児の入院時においてお願いしていた保護者の方の付き添い入院が難しくなったことから、現在小児患者の入院はありません。



外来初診患者さんは激減したままです。

3月1日より大阪府で緊急事態宣言が解除されました。COVID-19の流行が抑制できるようになれば新型コロナ専門病院の指定を外していただき、大阪市内で最も出生数の多い淀川区で唯一の出産施設であり、大阪市内で唯一の「赤ちゃんにやさしい病院」でもある十三市民病院でのお産を可及的速やかに再開してほしいと考えています。このまま第3波が収まり新年度、あるいは5月連休明けころから4階病棟が再開されて、地域の子どもの入院を受けられるようになれば良いのですが…今後ともよろしく願い申し上げます。

消化器内科のご紹介

消化器内科部長 谷川 徹也

当科では現在6名の消化器内科専門医が常勤しております。全員が日本消化器病学会認定専門医および日本消化器内視鏡学会認定専門医を取得しており、消化器領域の common disease の初期診療から専門的な入院精査・治療まで、幅広く診療を行っております。

新型コロナウイルス専門病院としての責務を内科医師として担いつつ、昨年7月末から消化器内科の専門診療を再開しており、今年度も平年通り、消化管出血に対する緊急内視鏡的止血術、大腸ポリープ切除術や粘膜切除術(EMR)、胃がんの内視鏡治療(ESD)、食道静脈瘤に対する内視鏡的静脈瘤硬化療法、内視鏡的逆行性胆道膵管造影(ERCP)検査および結石除去術、内視鏡的イレウス管挿入術、エコー下肝生検、肝臓に対する interventional radiology およびラジオ波焼灼術といった専門診療を行ってまいりました。上記のような治療を要するような患者様や、診断や治療に難渋されている症例、健康診断により消化管内視鏡検査や腹部超音波検査、腹部CT MRI検査といった二次精査が必要な患者様など、お気軽にご紹介いただければ幸甚に存じます。患者様の状態が安定すれば、診療ガイドライン等に即した適切な診療方針をご提示の上、積極的に逆紹介させていただきます。

内視鏡センターのご紹介

内視鏡センター長 佐野 弘治

感染防止策の徹底、内視鏡室の換気徹底、問診、体温測定をしています。

当院での消化管内視鏡検査・治療について

検査上・下部とも鎮静剤を使用しています。

上部消化管内視鏡検査(月～金曜日午前)

開業医からの地域医療連絡室を経由して直接予約は継続しています。

下部消化管内視鏡検査(月～金曜日午後)

外来で大腸コールドポリペクトミーを行っています。大腸前処置薬内服での排便によるエアロゾルが潜在的な感染リスクがあり、病院内での内服ができないため直接予約は中止しています。消化器内科外来にご紹介ください。

治療

上部消化管(食道・胃・十二指腸)治療

ポリペクトミー、EMR(内視鏡的粘膜切除術)、ESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)、EIS(内視鏡的食道静脈瘤硬化療法)、止血術、ERCP 処置(EST[内視鏡的十二指腸乳頭切開術]、ERBD[内視鏡的胆管ドレナージ術])、PEG(胃瘻)造設・交換、ステント挿入、経鼻的イレウス管挿入 など

下部消化管(大腸)治療

ポリペクトミー、EMR、ESD、止血術、ステント挿入、経肛門的イレウス管挿入 など

→入院時の喀痰 SARS-CoV-2 抗原とPCR 検査を行っています。喀痰 SARS-CoV-2 抗原の陰性で緊急内視鏡治療をしています。

内視鏡検査・治療のご紹介をよろしく御願いたします。



上部消化管内視鏡検査



大腸内視鏡検査

外科・消化器外科のご紹介

外科部長 井上 透
消化器外科部長 塚本 忠司

十三市民病院の外科・消化器外科では、胃癌・大腸癌・肝臓癌・膵臓癌・乳癌といった悪性腫瘍に対しては、手術治療、抗癌剤治療、放射線治療そしてこれらを組み合わせた集学的治療を行っています。手術術式も創の小さな低侵襲手術から、進行再発癌に対する拡大手術まで高度な技術を要する手術にも対応しております。また、進行して症状を伴うような癌に対しても、癌患者さんの日常生活を少しでも過ごしやすい



くするように、鎮痛剤を中心としたさまざまな症状緩和治療をおこなっています。胆石症、鼠経ヘルニア、痔疾患(痔核、痔瘻、裂肛)などの手術を必要とする良性外科疾患に対しても、腹腔鏡や ALTA 注射治療などお身体に優しい治療を行っており、当科では患者さんに安心を提供する、患者さん中心の外科診療を目指しています。手術を受ける必要のある患者さんが安心して、地元の病院でより良い治療を受けることができるよう努力しております。

外来診療体制としては、外来は月曜から金曜まで午前 2 診で行っています。

外来化学療法室では消化器癌と乳癌に対する術前・術後補助療法や進行再発癌に対する化学療法を行い、患者さんの「生活の質」を維持しながら予後の向上に努めています。

手術のみならず化学療法や癌終末期医療(緩和医療)まで一貫した診療体制を心がけ、手術予定日の前日入院を徹底するために、月曜日の手術予定患者さんの日曜入院も導入しています。

当院の手術患者さんの特徴の一つとして高齢の患者さんが多いことが挙げられますが、術後の早期離床などさまざまな取り組みにより、肺炎などの合併症予防に努めています。近年、罹患率の増加が著しい大腸がんや乳がんに対しては特に治療に力を注いでいます。

大腸癌では周囲の臓器への浸潤を伴うような巨大腫瘍を除いては、腹腔鏡による低侵襲手術を標準としており、治療成績向上のため術後の抗癌剤治療もガイドラインに基づいて行っています。特に直腸癌に対しては腹腔鏡による神経温存手術を基本とし、肛門に近い腫瘍に対しても術前放射線化学療法を行い、肛門温存に努めています。乳がんに対しては、マンモグラフィー、乳腺エコー、穿刺生検によって確定診断をおこない、手術においては乳房温存術式を原則としています。センチネルリンパ節生検による腋窩リンパ節郭清省略により腕のリンパ浮腫を予防しています。



肝臓の癌(原発性・転移性ともに)に対しては腹腔鏡下肝切除術にて、

非常に小さな手術創で腫瘍切除を施行できており、術後の痛みや癒着の軽減を図れています。進行した大きな癌にたいしても開腹手術で根治性の高い手術を行っています。また、肝癌・膵臓癌・胆道癌に対しても先進の化学療法を施行し、切除可能症例には積極的に行っています。

鼠径ヘルニア手術はお臍の傷のみで腹腔鏡手術を行い、痔核に対しては局所注射により痔を治療するALTA療法を行い、切らずに痔を治す手術をしております。

下肢静脈瘤の治療としては、保存的治療、硬化療法、手術、血管内治療を行っていますが、血管内治療は治療実施委員会認定医のもとでラジオ波を用いた焼灼術をしております、これらの手術は短期滞在手術（日帰りや1泊手術など）として対応しています。

在宅での栄養管理に中心静脈埋め込み型ポートや胃瘻などの造設も短期入院で行っています。

眼科のご紹介

眼科部長 森脇 光康

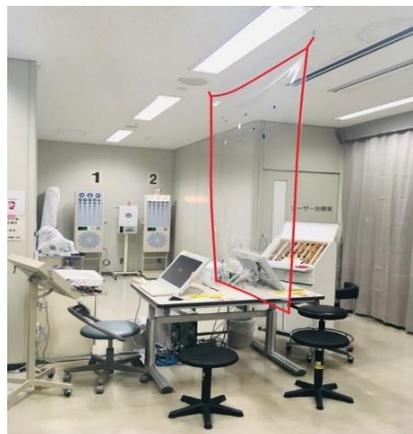
外来の一般患者の受け入れ状況ですが、2020年7月27日から検診を除く外来診療が再開しました。われわれ医師はCOVID-19入院患者の診療を継続しつつ、外来通院患者の診察にもあたるため、感染予防に一層気をつけて対応しています。受診される方は、正面玄関でカメラによる体温測定の後問診表の記入をしていただき、対応するスタッフはサージカルマスクに加えてフェイスシールドまたはゴーグルとグローブ着用で対応しています。

現在、緊急処置や緊急手術には対応できませんが、徐々に手術（白内障手術、抗VEGF薬の硝子体内注射）も再開しています。入院や手術に際しては必ず事前にPCR検査と胸部レントゲン撮影を行っています。また、1病棟を全科で振り分けているため、手術・入院日程などご希望に添えない場合もあります。ご迷惑をおかけしますが、よろしくお願い申し上げます。



視野検査室

(クリーンパーテーション設置)



視力検査台

(ビニールカーテン設置)



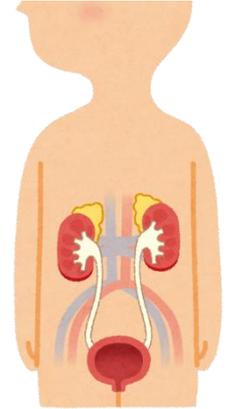
泌尿器科のご紹介

泌尿器科部長 安達 高久

近隣の先生方へ

日頃は十三市民病院泌尿器科が大変お世話になり、誠にありがとうございます。
御存じのように本院は、Covid19 患者専門病院への移行を受けて、昨年 4 月より一般泌尿器科診療は完全に中止となりましたが、その後 7 月には外来が、8 月以後は入院治療も再開となりました。一般診療再開時は幾分戸惑いもありましたが、特に大きな問題はなく、現在は従来通りの外来、入院、手術等を行っております。また幸いにも当科はコロナ以前のスタッフ(泌尿器科常勤専門医 3 名)に変わりはなく、マンパワーを低下させることなく診療に取り組んでおります。まだまだ以前に比較して患者さんは多くはございませんので、逆により柔軟かつ丁寧な対応も可能な状況でございます。どの様な内容でも結構でございますので、もし当科での診察・治療を望まれる患者様がおられましたら、またご紹介いただければ幸いです。

今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



整形外科のご紹介

整形外科部長 田中 亨

いつも大変お世話になっています。昨年は4月から当院が COVID-19 専門病院化に伴い大変なご迷惑をおかけしました。おかげさまで7月から外来を再開して病棟の再開、手術室の再開へと一般診療を少しずつ広げてきておりますが、COVID-19 の病勢も不安定で当院整形外科診療がどの程度の対応が可能なのか現時点での状態を報告させていただきます。

現在と昨年3月までの診療体制で異なる部分は以下の2点です。

- ・ 病棟は全科で1病棟です。(COVID-19 専用が3病棟)
- ・ 手術室は全科で1.5列の運用です。(午前は1列、午後2列)

整形外科はスタッフもそのままの人員で勤務しており、外来に関しては外来検査も含め以前と全く変わりにくく対応しています。

手術については外来手術であっても当日処置が必要な場合は手術室入室時の PCR 検査の陰性証明が必要で対応ができていません。人工関節手術や脊椎手術など予定待機手術については現在のところ滞りなく実施できています。

そのため、救急は基本的にお受けできない状態ですが、通常の骨折で手術が必要な場合はできる限り初診から遅くとも一週間以内の実施している状況です。

即日処置が必要な場合を除きほぼ今まで通りの対応が可能と思っておりますので、症例がございましたらご紹介くださいませ。

耳鼻咽喉科のご紹介

耳鼻咽喉科部長 愛場 庸雅

耳鼻咽喉科では、頭頸部の疾患について、赤ちゃんから老人まで、急性から慢性まで、良性疾患から悪性疾患まで、薬物治療から手術まですべて取り扱っています。十三市民病院では、マンパワーと設備の点からすべてをカバーすることは困難ですが、地域における1st&2ndステップの医療に貢献できればと思っております。耳鼻科的なチェックが必要な場合は気軽にご相談ください。当院での得意分野は、難聴、副鼻腔炎・アレルギー性鼻炎、嗅覚障害・味覚障害、などの診療です。

検査では、CTやMRIによる画像診断のほか、言語聴覚士による聴力検査(各種)、簡易平衡機能検査、嗅覚・味覚機能検査、鼻・咽頭・喉頭・嚥下機能の内視鏡検査、病理組織検査などが可能です。

手術は、現在常勤医が1名のため、外耳、鼓膜チューブ挿入、内視鏡下鼻副鼻腔手術、鼻中隔矯正術、鼻甲介切除・レーザー焼灼術、口腔・咽頭・喉頭・唾液腺・頭頸部の良性腫瘍手術、などの短期入院手術に限定して行っております。

耳鼻咽喉科の特性として、咳やくしゃみなどで飛沫が飛びやすい環境にあるため診察室の感染予防には特に注意し、個別滅菌または消毒製品の診察器具を使用するとともに、お一人ずつの入室とさせていただきます。

放射線科のご紹介

放射線科部長 甲田 洋一

十三市民病院放射線科は日本医学放射線学会認定の放射線診断専門医・指導医の資格を持つ常勤医がCT、MRI、消化管透視などの画像診断を行っています。

当院で稼働しているCTはシーメンス社製 Somatom Definition AS+というマルチスライスCT(128スライス)です。被ばくを低減する機能があり、CARE Dose Configuratorという管電流を低減する仕組みやCARE kVという管電圧を低減する仕組みが搭載されています。また最大60%の被ばく低減やイメージクオリティの向上が行えるRawデータベースの逐次的再構成法も利用可能です。開業医の先生方からはCTのご依頼をお受けしておりますのでよろしくお願いいたします。ご依頼をお受けするのは原則としてはすべての部位の単純CTですが、造影CTをご希望の場合は地域医療連絡室にお問い合わせください。

当院で稼働しているMRIはフィリップス社製のIngenia 1.5Tです。従来とは異なりRFコイル内でMR信号をアナログからデジタルに変換できる初のMR装置です。このことによりアナログ信号経路に特有のノイズの影響を排除しMR信号を減衰なく転送が可能になり、画質の向上と検査のスピードアップにつながります。開業医の先生方からはMRIのご依頼もお受けしておりますのでよろしくお願いいたします。ほぼすべての部位のMRIは撮影可能です。ご不明の場合は地域医療連絡室にお問い合わせください。



アクセス/交通図

近隣マップ



広域マップ



大阪市立十三市民病院

〒532-0034

大阪市淀川区野中北2丁目12番27号

- 十三市民病院 代表電話
06-6150-8000
- 地域医療連携室 直通電話
06-6150-8067
- 地域医療連携室 専用FAX
06-6150-8686

交通アクセスのご案内

電車の場合

- ・ 阪急電鉄神戸線「神崎川駅」から南東へ約8分
- ・ 阪急電鉄「十三駅」から北西へ約12分

バスなどの場合

- ・ 大阪シティバス「十三市民病院」下車
(病院敷地内正面玄関前まで乗り入れます)
- ・ 69号系統「大阪駅前～榎木橋」

車の場合

- ・ 国道176号線「新高一丁目」交差点より
南西へ約1km

患者送迎バス(無料)などの場合

- ・ Aルート：阪急三国駅方面 (1日6便)
- ・ Bルート：JR加島駅方面 (1日5便)
- ・ Cルート：JR塚本駅方面 (1日5便)
- ・ Dルート：阪急十三駅方面 (1日5便)



母乳育児相談室を再開します



新型コロナウイルス感染症が流行している中で、



母乳や育児をされているお母さん方をアドバンス助産師がサポートします。

♥ ご希望の方は 事前予約が必要になります

下記の番号にお電話をいただき「母乳育児相談室を希望」とお伝えください。

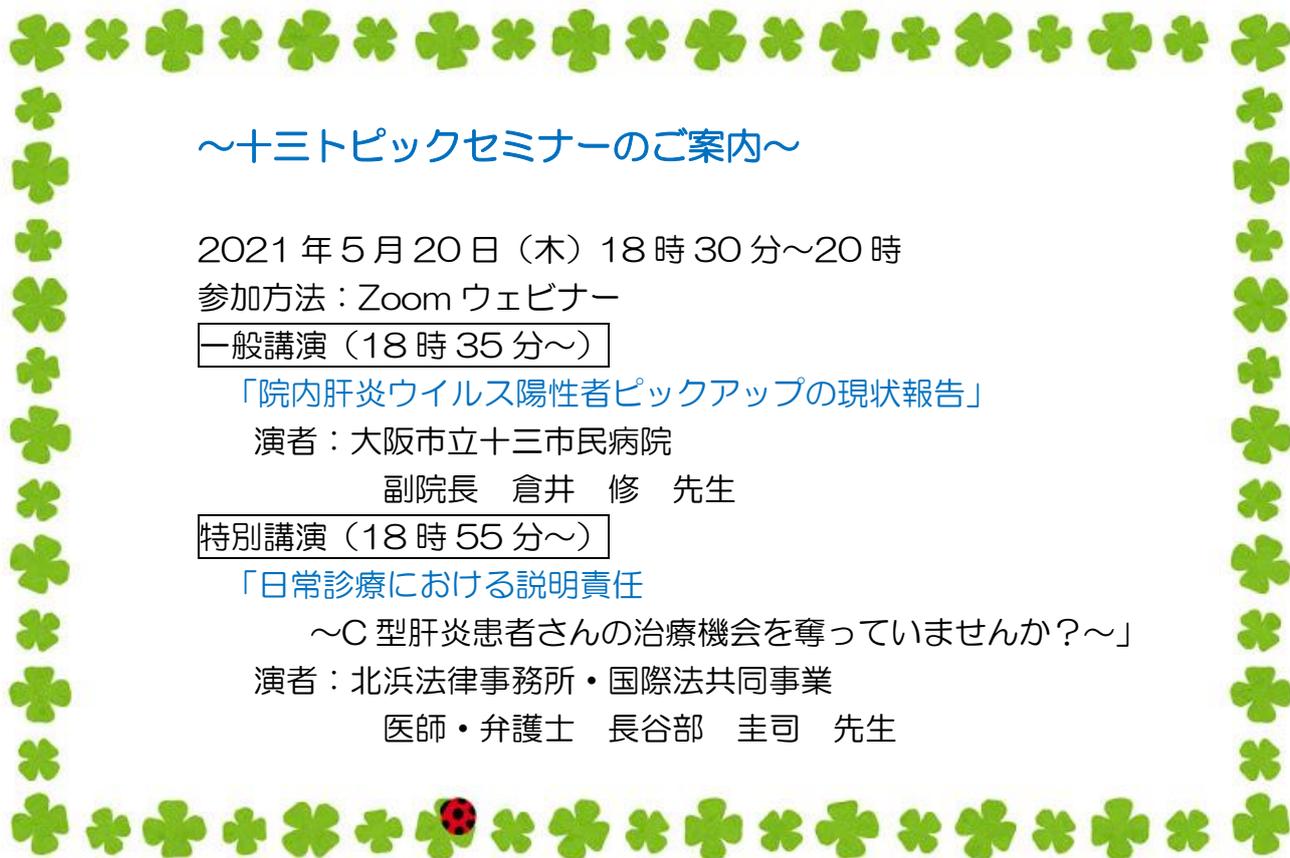
電話番号：06-6150-8000（対応時間：平日 10 時～16 時）

外来予約時間：火曜日～金曜日 13 時～16 時

金額：2880 円



大阪市立十三市民病院 母乳育児相談室



～十三トピックセミナーのご案内～

2021 年 5 月 20 日（木）18 時 30 分～20 時

参加方法：Zoom ウェビナー

一般講演（18 時 35 分～）

「院内肝炎ウイルス陽性者ピックアップの現状報告」

演者：大阪市立十三市民病院

副院長 倉井 修 先生

特別講演（18 時 55 分～）

「日常診療における説明責任

～C 型肝炎患者さんの治療機会を奪っていませんか？～

演者：北浜法律事務所・国際法共同事業

医師・弁護士 長谷部 圭司 先生

編集

大阪市立十三市民病院
地域医療連携室

〒532-0034

大阪市淀川区野中北 2-12-27

代表電話：06-6150-8000

直通電話：06-6150-8067

（地域医療連携室）